

説教余滴、2018年2月4日《スペインと二度の遣欧使節団》

ザビエルの日本来航に随行したイエズス会士は、コスメ・デ・トーレス神父がバレンシア、フアン・フェルナンデス修道士はコルドバの出身であり、日本へのキリスト教伝来という出来事はまた、スペイン人の日本への来航を記す出来事でもあった^[10]。ザビエルは1551年に日本を離れるが、フェルナンデスは1567年に平戸で、トーレスは1570年に天草の志岐（熊本県苓北町）で没している。

ザビエルの離日に同行した薩摩出身の洗礼名ベルナルドという青年は、ポルトガルからローマに向かう途中スペインに各地に立ち寄っている（彼はポルトガルに戻ったのち、1557年ごろコインブラで死去）。また、ポルトガル・イエズス会と密接な関係にある天正遣欧使節団の一行は、その後スペインから独立したポルトガルから陸路スペインに入って各地を訪問、1584年11月にはマドリードでフェリペ2世に謁見している。

1609年（慶長14年）には前フィリピン総督ドン・ロドリゴがヌエバ・エスパーニャ（現在のメキシコ）への帰任に際し海難で上総国岩和田村（現千葉県御宿町）に漂着し、1611年（慶長16年）にはセバスティアン・ビスカイノが答礼使として来日した。田中勝介等の使節団はドン・ロドリゴの帰郷に同船しヌエバ・エスパーニャを訪問、セバスティアン・ビスカイノに同行し帰国した。

1613年（慶長18年）に、セバスティアン・ビスカイノの協力でサン・フアン・パウティスタ号を建造した仙台藩が、ルイス・ソテロや支倉常長らの慶長遣欧使節団をヌエバ・エスパーニャ（メキシコ）経由でスペインに派遣し、常長等は1615年1月にマドリードでフェリペ3世に、同年11月にはバチカンでローマ教皇パウルス5世に謁見する。

しかし、その後江戸幕府はキリスト教の禁教政策を強化し、1624年（寛永元年）にはスペイン船の来航を禁止するに至った。